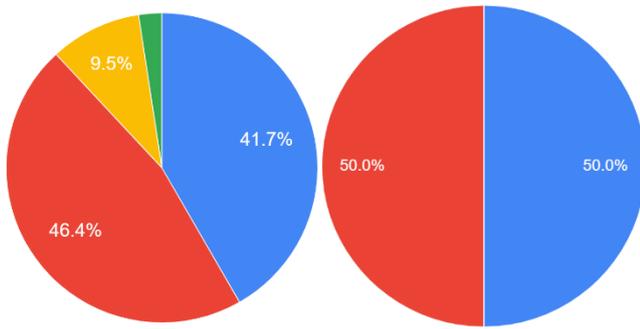


① 楽しく学校に行っている。

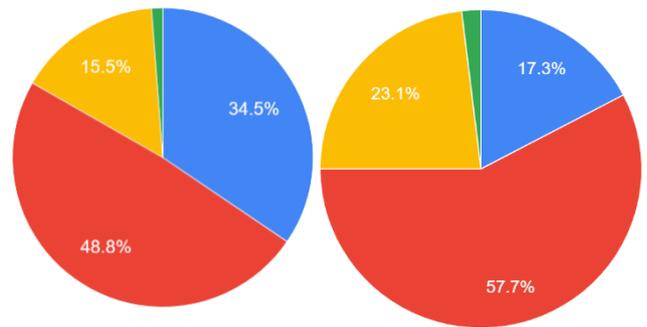


児童 保護者

● そう思う ● だいたいそう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない

「学校が楽しい」と回答した児童が9割弱、保護者は10割が肯定的な回答だった⇒引き続き多くの児童が学校生活に前向きである一方、より安心して過ごせる環境づくりが必要である。普段の児童の様子に心を配って声をかけ、学習面でのサポートを改善し、保護者と連携して対応することで前向きに学校に来ることができるのではないかと考える。そのため、全職員で児童の共通理解を図り、日々取り組んでいく必要がある。

② 夢(めあて)や目標をもってがんばっている。

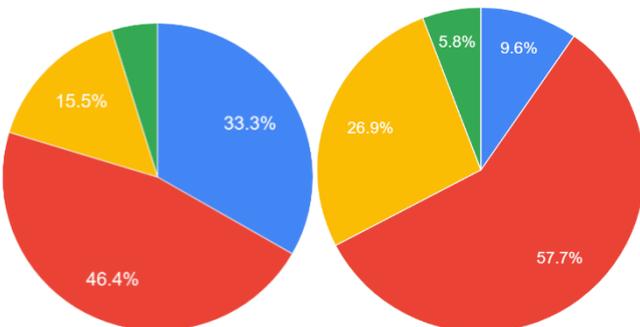


児童 保護者

● そう思う ● だいたいそう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない

肯定的に答えた児童が83.3%となり、昨年度(85.9%)よりわずかに減少した。⇒多くの児童が前向きに取り組んでいる一方、より意欲を引き出す働きかけが必要である。日々の生活・学習や行事、また夢授業やキャリア教育等を通して、夢(めあて)や目標を持って努力し、達成を実感できる場づくりを進めていく。また、自ら考え行動できる児童を目指し、結果だけでなく努力する過程を評価していく。

③ 失敗や間違いを恐れず、挑戦している。

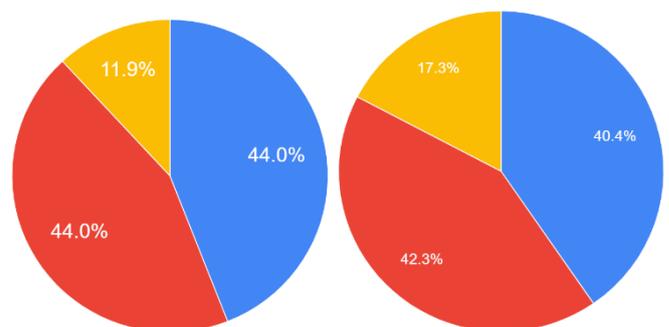


児童 保護者

● そう思う ● だいたいそう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない

肯定的に回答した児童が昨年度と比較し、8.5%の減、肯定的な回答が8割弱であった。保護者は肯定的な回答が4%減の7割弱であった。⇒学校生活の中で、できるようになるために努力する児童は多い。しかし、結果や成果ばかりに目を向けるのではなく、児童には、頑張る過程を大切にしていったり、挑戦することに価値づける声掛けをさらにしていく必要がある。失敗や間違いから学び、何度でもチャレンジできるたくましい児童を育てていきたいと考える。

④ 誰とも仲良くできている。

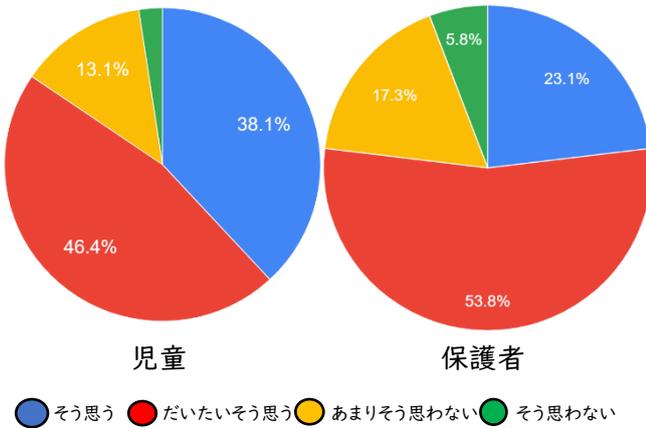


児童 保護者

● そう思う ● だいたいそう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない

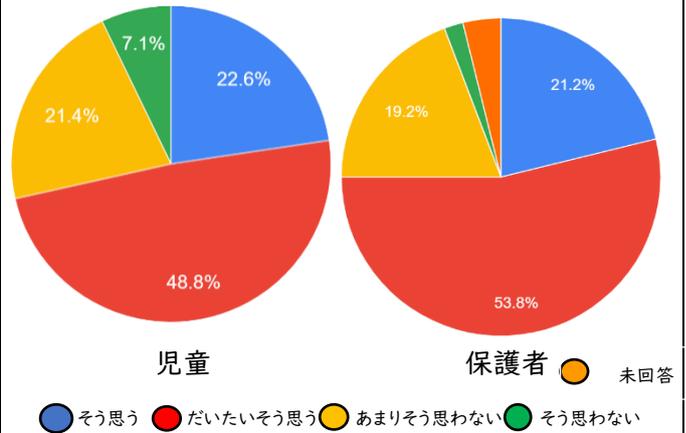
児童・保護者ともに8割強が肯定的な意見であった。「あまりそう思わない」と回答した児童は約1割強、保護者は約2割弱であった。⇒縦割り班活動(ロングタイムや掃除)、人権教育(ひみつの友だち等)の取組でお互いの良いところを見つけたり、大切にしたりする気持ちは育っていると考えられる。児童の様子を職員全体で見守り、相手を傷つける言動を見逃さず、早期対応、早期解決に努め、自分の言動を見つめさせ、今後へ繋ぐ指導をしていく。

⑤自分から気持ちのよい声であいさつしている。



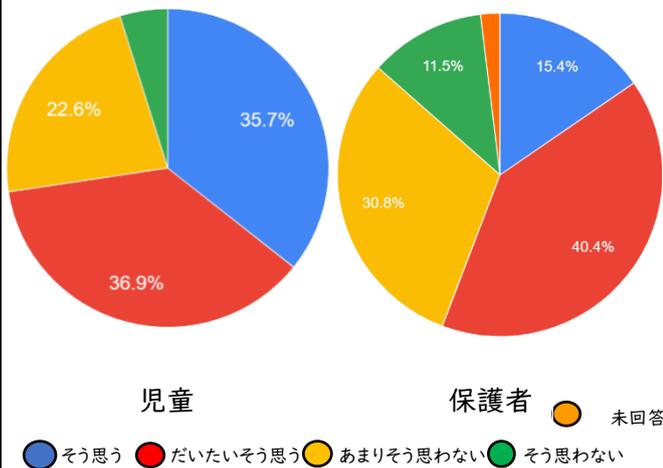
児童は約8割強が肯定的に回答している。昨年度、保護者の肯定的な回答が約5割強だったのが、7割強に増えている。⇒児童と保護者との認識が近くなったのは、児童に「相手に伝える挨拶」を意識させ、声の大きさだけでなく、目と目をつないだり、会釈をしたりする方法も合わせて指導したことの成果であると考え。また、児童が主体的に挨拶をするよう、児童会と連携した「朝のあいさつ運動」の取組は継続していく。

⑥授業中は、しっかり話を聞き、自分の考えを伝えている。



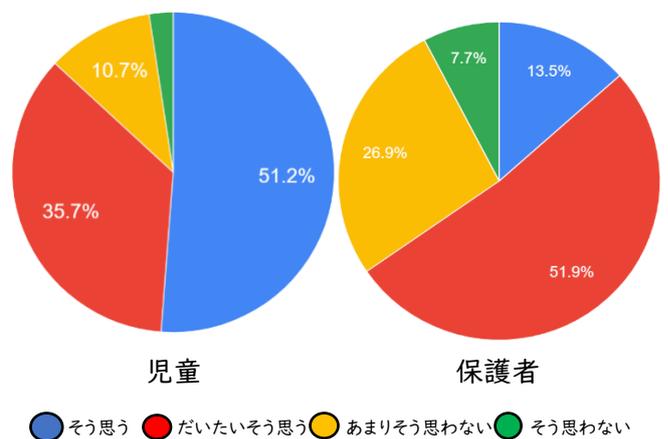
児童は7割、保護者は7割が肯定的な回答であった。⇒昨年度と比較して、児童が2割、保護者が1割減となった。どの学年でも落ち着いて学習に取り組むことができているように思うが、中には学習に集中しにくい児童いる。そのような児童に対して、個に応じた学習方法や進捗の選択ができる機会を設けたり、ICT機器を活用して発言が苦手な子ども考えを表明しやすくしたりする等の指導方法の工夫を継続して行っていく。

⑦本や詩に親しんでいる。



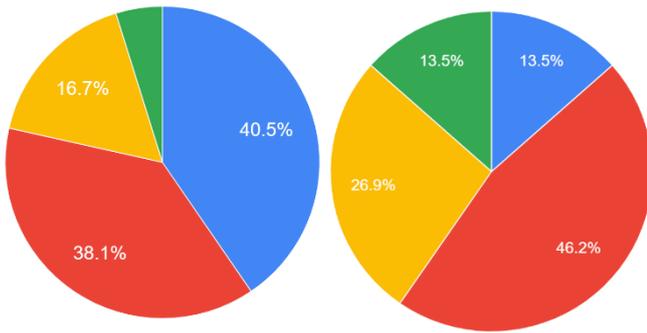
児童は7割、保護者は5割強が肯定的な回答であった。⇒昨年度と比較して児童、保護者共に若干の減少が見られた。朝読書や週末読書、家読、元気アップ大作戦等の取組から、良い読書習慣が身についていると感じる。詩についても同様に、チャレンジタイムや詩集の作成に取り組んでいる。今年度は新聞への投稿も再開し、掲載されたことで意欲の向上にもつながった。今後も「読む・書く」ことに対する喜びや楽しさを感じられるよう指導し、保護者に向けても通信を中心に取り組みを積極的に発信していく。

⑧大路漢字検定・計算検定に意欲的に取り組んでいる。



児童は9割、保護者は6割強が肯定的な回答であった。⇒保護者の方で若干の減少が見られた。児童については合格に向けて家庭学習中心に取り組むことができている。そのことを児童も実感していることが肯定的な評価につながっていると感じる。今後もこの取組を続け、どの児童にも基礎的な学力が見に付くようにしたい。また、検定に向けた取組やその結果を保護者に伝えることで、子ども達の頑張りを知らせてもらうことにつながるのではないかと考える。

⑨家庭学習は、学年のめやすの時間できている。



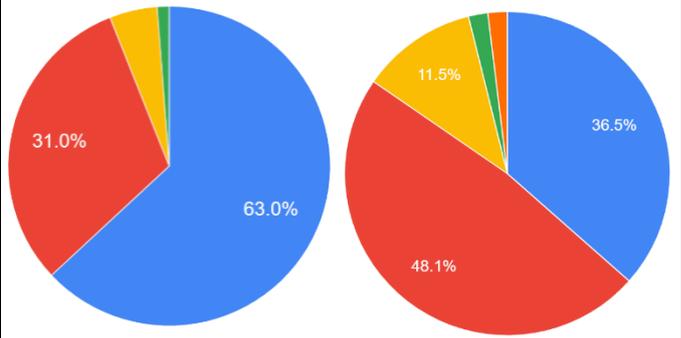
児童

保護者

● そう思う ● だいたいそう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない

児童は8割、保護者は6割が肯定的な回答であった。⇒保護者の方で1割の減少が見られた。要因として子ども達の家庭学習の時間を教師もなかなか把握できていないことが挙げられる。どの学年においても日によって程度の差はあれ、漢字・計算・音読（読書）・マイノートをベースにした内容に取り組むことができているので、家庭学習の時間を視覚化できるようなものを作っていきたい。また「家庭学習の手引き」についても適宜見直し、修正を図っていくようにする。

⑩地域の人との学習を楽しみにしている。



児童

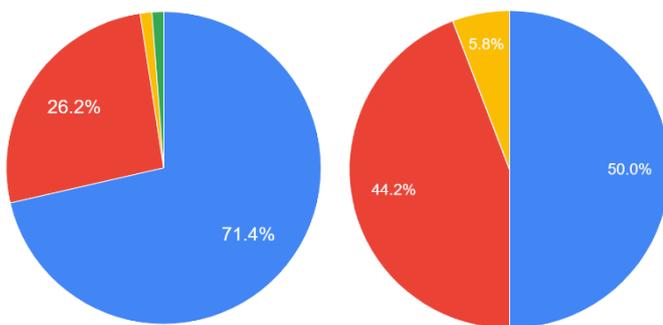
保護者

● 未回答

● そう思う ● だいたいそう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない

児童は9割、保護者は8割が肯定的な回答であった。⇒保護者の方で1割の減少が見られた。児童にとって各学年で実施している体験学習や4～6年生で行うクラブ活動はとても学習効果の高いものになっていることが分かる。通信・HPに加え、子ども達が家で学んだことを話して伝えるような活動を通して、保護者への認知をさらに深めていきたい。今後も学校支援コーディネーターと連携を図り、地域の方々の協力を得ながら、魅力を感じられるような教育活動を継続していく。

⑪自分たちが住んでいる「ふるさと大路」が好きである。



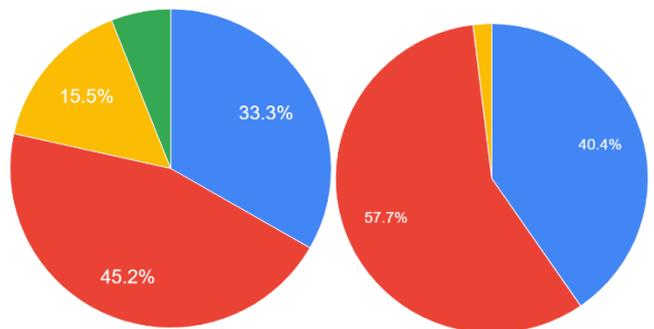
児童

保護者

● そう思う ● だいたいそう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない

肯定的に答えた児童は97.6%と昨年度(91.8%)から増加している。⇒学校朝会の校長講話で、大路地域の良さを伝え、「たんば大路ふるさと学」（炭焼き・大路の未来など）をどの学年でも行い、地域の方々から学ぶなど、ふるさとでの良さを感じている児童が多いと思われる。今後も地域の教育資源を積極的に活用し、地域の「人」「自然」「もの」を活かした大路ならではの良さを感じられるように工夫していく。

⑫自分にはよいところがあると思っている。



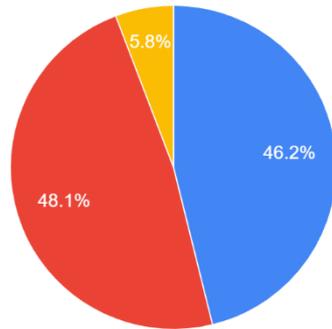
児童

保護者

● そう思う ● だいたいそう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない

昨年度よりも、肯定的な回答が児童は、3.2%増加し約8割、保護者は2.9%増加し10割近くになっている。⇒キャリアパスポートで自分自身を振り返る活動、自分発見、ひみつの友だちなど、一人一人を大切にしたい取組や自分の良さを感じられる取組などの成果と考える。しかし、否定的に回答している児童が約2割いることを踏まえ、引き続き、効果的な言葉かけや肯定的な評価をしながら、児童が自分の良さを実感できるよう、支援をしていく。

⑬学校だより、校長室だより、保健だより、学級通信、ホームページなどで、学校の様子がよく伝わっている。



児童

保護者

● そう思う ● だいたいそう思う ● あまりそう思わない ● そう思わない

昨年度同様、肯定的な回答が9割強となった。⇒ホームページ、メール、紙媒体などさまざまな方法を用いて学校の様子を発信している。それを通じて学校の行事や児童の様子が伝わっていると考えられる。家庭と地域に開かれた学校づくりのために、ニーズに合った効果的な発信方法を今後も検討し実践していく。